

MajorFlow導入事例

株式会社日本アポック

約6か月という短期間導入!
クラウド化によるBCP対策もあわせて実現

経営体制の変更を受け、経理・財務系システムを一新することが決定。しかし、残された時間はたったの6か月——。そんな問題を解決したのは、MajorFlowの基本パッケージにこだわったシンプル導入。低コストで必要な機能を網羅し、BCP対策まで行えた理由とは。



株式会社日本アポック

- 設立 / 1995年
- 代表者 / 犬竹 一浩
- 資本金 / 2億7079万円
- 社員数 / 386名(2015年6月現在)
- 本社 / 埼玉県川越市脇田本町6番地20くぼたビル3F
- URL / <https://www.apoch.co.jp/>

株式会社日本アポックは、埼玉県を中心とする首都圏に40(2015年7月現在)の調剤薬局を展開する、東証一部上場アルフレッサグループの企業です。地域の患者様に健康で豊かな日常生活をご提供するかかりつけ薬局として、「処方されたお薬を正しく、安全に患者様に服用していただけるよう配慮する」「患者様、地域の皆様の健康・介護相談に親身にお応えする」「処方せんを持たずとも、気軽に入っていただく」という3つの理念のもと調剤事業を行っています。

POINT

導入までの期間は6か月と短く、実現できるか未知数だった。



MajorFlowの基本パッケージにこだわったシンプル導入を行う。短期導入に成功した上に、費用も抑えて導入できた。

自社運用をするにあたり、サーバ管理を行う管理者がいない。



サーバは自社内に保有せず、クラウド化を選択。データバックアップやリストアサービスも契約し、BCP対策も万全の体制に。

紙の申請書による業務がまだ残存している。



MajorFlowのフォームデザイナーを使用して、順次ワークフロー化する予定。

課題

2015年3月、経営体制の変更を受け、経理・財務系システムを一新することになった日本アポック様。同社で製品選定から稼働に至る一連の導入を担当した管理部のキーマン、店舗サポート・システム担当の中村国博氏、財務担当の戸田忠弘氏にお話を伺いました。

移行期間はたった半年間
コスト、他システム連携の制約も

従来のシステムでは、ワークフローは主に小口現金に関する承認・申請・レポート等の用途に活用しており、新システムにも同等の機能が

必要でした。「当社の親会社となるアルフレッサホールディングスは上場企業ですので、経理をはじめ様々な面で内部統制に則った可視化が求められます。また、店舗をチェーン展開しているため拠点が多く、ワークフローによる可視化や一元化、効率化を図ることは大前提でした」と語るのは戸田氏です。

また、新システムのカットオーバーが2015年3月末ということは決定事項であり、1日たりとも遅れるわけにはいかない事情がありました。中村氏は、「約半年間で製品選定、マスタの整備、構築、テストをすべて終わらせなければな

りません。それに加え、従来のシステムで行っていた業務が過不足なく実現すること、会計システムや固定資産管理など同時に導入するほかのシステムと連携できること、予算など様々な制約があり、新しいワークフロー選びのハードルは非常に高いものでした」と当時を振り返ります。

そして、様々な要件を加味して厳しい選定を行った結果、最終的に選ばれたワークフロー製品がMajorFlowでした。

Major Flow

業務の見直しを行いつつ、半年間という短期間導入を実現

半年間という短期間での導入を実現した背景には、MajorFlowのパッケージとしての高い完成度があげられます。中村氏によると、10月に導入を開始し、既存システムからのマスタ移行の準備が完了したのが12月末、マスタの取り込みと設定を終えたのが翌2月上旬、その後チェックと社員教育を行い、予定期日となる3月末に無事稼働開始となりました。

同社では、小口現金はレジの売上金から振替伝票を利用して立て替え、後日補充するといった方法をとっています。MajorFlowには振替伝票をはじめ、様々なシチュエーションに対応できる細やかな機能があらかじめ搭載されていたため、基本パッケージのまま導入することができました。

とはいえ、実際のオペレーションについては、MajorFlowに合わせて変更した部分もあります。「システムを完全に自社流にカスタマイズするとコストも時間もかかります。現状の業務にパッケージをあてはめるのか、またはパッケージに業務を合わせるのかと考えましたが、今回は特に導入期間が短かったこともあり、業務をできるだけMajorFlowに合わせる方向で検討しました。しかし、自社独自の業務といっても単に習慣的に行っているだけで、それほどこだわる必要のないものも多いのです。そして、今回の導入がかえってそうした業務を見直しやすい機会になったという側面もありますね。その結果、費用を抑えることができました」(戸田氏)。

サーバは自社で保有せずクラウドにBCP対策としてバックアップも

同社の従来のシステムは親会社に設置されたサーバ上で稼働しており、リモートデスクトップでアクセスして利用していました。しかし、新しいシステムは自社で運用することが決まっ

おり、サーバをどこに設置するかという点も検討すべきことの1つでした。

「自分たちで運用するとすると、誰がサーバを管理するのかという問題がでてきます。管理部では、財務、総務、人事、情報システムなど幅広く業務を担当しており、皆多忙です。そこで、いっそサーバを保有しないという選択を行いました。サーバ購入の初期費用と月額の利用料金を比べると、一見購入のほうが安価に感じられますが、それを運用する人件費など“見えないコスト”や、もっと長い目を見た時のサーバ老朽化の問題などを考慮すると、やはり当社の現状にはクラウドがマッチすると感じました」(中村氏)。

従来は、店舗が増えるたびにリモートアクセスツールのライセンスコストなどが増えていく点が悩みの種だったとのことですが、どの店舗からもクラウド環境にアクセスできる体制を整えた結果、それも解消しています。

また、自社内に設備を持たないことは、BCP対策の観点からも有効です。同社では今回の導入と同時に、MajorFlowバックアップリストアサービスにも申込み、いざという時に備える体制も整えました。

滑り出しは上々 今後はフォーム作成も行いたい

実際に運用を開始する前には、システムを利用する社員のためにWeb会議で研修会を開いたり、操作画面の動画をキャプチャしたマニュアルを作成・配布するなど、教育も万全に行ったという中村氏。「今回が初めてのワークフローシステムというわけではありませんので、各店舗の社員たちもすんなり馴染んでくれたようです。かつて新規導入した時ほどの混乱もなく、スムーズな滑り出しです」。

現在、システムの稼働開始から約3ヵ月。「従来のシステムは自社で運用していたわけではありませんので、カスタマイズなどの自由はききませんでした。足りない部分は紙の申請書を作るなどしてなんとか補完してきたという経緯があります。これからは、MajorFlowのフォームデザイナーなどを使って必要な申請書を自分で



株式会社日本アポック
管理部 次長
財務担当
戸田 忠弘氏



株式会社日本アポック
管理部 次長
店舗サポート・
システム担当
中村 国博氏

作ることもできますので、小口現金精算だけでなく、人事系、営業系の申請など、様々な業務にワークフローを活用したいと考えています」(戸田氏)。



担当営業からひとこと

パナソニック ネットソリューションズ株式会社
ビジネスパートナー営業部
久保木 純希

短納期が求められる中、日本アポック様には多大なご協力を頂き、誠にありがとうございました。製品導入だけでなく、クラウド化及びBCP対策まで、お客様のニーズにあったサービスをご提供できたと営業担当として嬉しく思っております。反面、製品としての機能要望を頂いているのも事実ですので、真摯に受け止め今後の製品開発に反映してまいります。

ノンカスタマイズで導入された日本アポック様には、ぜひパッケージ製品の利便性を高く実感頂きたく、今後とも製品及びサポート面でご要望にお応えできるよう努めさせていただきます。